# みんなちがってみんないい

## Ｒ２その（７）　指導教諭　木村　栄

今回は少し目先を変えて、「就労自立支援」についてお話します。「小学校で就労の話？」と思われる方がいらっしゃるかも知れませんが、最後までお付き合いいただければ幸いです。

世界的なコロナウィルス禍にある現在、日本でも生活様式や働き方などに大きな変化が起こりました。総務省統計局が１２月に発表した日本の完全失業率は約２１５万人で、コロナの影響で７か月連続増加しています。昨年の同月比で約７０万人増加しており、今後も増え続ける予想です。これは、高卒・大卒学生の就職にも影響しており、先の見えない状況が続いています。

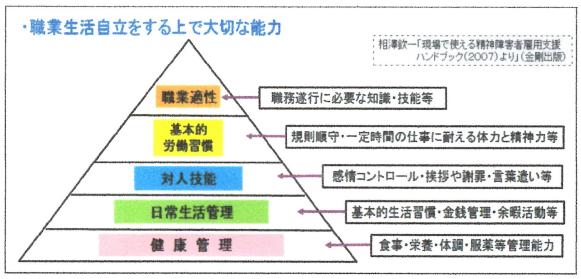
「就労自立」とは、字の通り「仕事で収入を得て、自立して生きていく」ことです。どのお子さんも最終目標は「就労自立」です。それが親としての役割の大きな節目でもあります。

では、「就労自立」に必要な能力とは何だと思いますか？「学力？」「職業適性？」、どれも正解であり、不正解でもあります。もちろん必要な能力ではありますが、これは「就労自立に必要な能力ピラミッド」の頂点にある力に過ぎません。

底辺にある大切な能力、これが身に付いていないと仕事が長続きしなかったり、ミスが続いたりしてしまいます。これから「底辺にある能力」に付いてお話します。

障害者職業センター主任研究員の相澤欽一著「精神障害者雇用支援ハンドブック」の中に、障害の有無に関わらず、就労に必要な能力について示されています。このことについては、長崎県発達障害者支援センター「しおさい」の職員による研修の中でも何度も取り上げられていました。

相澤氏によると、就労に必要な能力は図のようなピラミッドで考えることができます。




最も基礎となる力は「健康管理能力」で、これは「食事や睡眠などを含めた体調管理を自分でできる力」になります。今は保護者が身の回りの世話をしていると思いますが、一人暮らしをした時、自分で気がける必要があります。それができた上で、「日常生活管理能力」が必要になります。これは「基本的な生活習慣や金銭の自己管理、余暇の使い方・人づきあい」などになります。「自分で起きて、仕事に遅れないように出勤する」「光熱費や税金、預金の管理をしながら、払えない借金を負わない」など、とても大切な能力になります。

この二つの能力を「ライフスキル」と言い、「就労」だけでなく「生きていく上で必要な基礎的能力」ということになります。「一人で買い物に行く」「バスに乗って移動する」「困ったときに助けを求める」など、今お子さんにその力があるでしょうか？　小学校高学年までには身に付けておきたい力です。このライフスキルは、「大人になって自然と身に付くものではなく、就学前の幼児期から子育ての中で意識することで獲得していく」ものです。「いつかできるようになる」でなく、「早くから意識しないと十分に育たない、身に付かない」という意識が大切です。

これら基礎的な能力の上に、「対人技能」「基本的労働習慣」「職業適性」が必要になってきます。

実際、この基本的な力が十分に身に付いていなかったために、就職に失敗する例が少なくありませんし、本人の能力特性と職業適性が一致しない職業についてしまうと、仕事が上手く行かないだけでなく、人間関係の悪化などから不安症などの精神疾患を誘発する原因にもなってしまいます。

学校という場所は、小学校～大学まで、良くも悪くも「児童・生徒ファースト」です。児童生徒のことを第一に考えて、周りが動きます。しかし、社会はそうではありません。会社や企業はボランティアで人を雇い、賃金を払うことはないので、「必要な人材かつ長期的に就労できる」ことが雇用の条件となります。親がいつまでも子どもの身の回りの世話を焼くわけにはいきません。自信をもって１８の春を迎えられるよう、歩みを進めていきたいですね。

次回は「言語・聴覚・視覚障害」についてお話します。

---

「みんなちがってみんないい」のです。

まさに「ラ子特ら最適化指す別めとを時なすちのがヨあマのすて子言未まけ、ど」のので能を適」まいいに学とい然キど性れ化され導今援、大けが、つ力社々りで未。教どわ来せを子もとう自きカ受切がすこるつ習思」にル「もにてされ導年教学切る、てを会のまあ来そ育もれを。失どのいち主まをけなあ。ととく能い丨身は、をあいた要育校１真い付に学す。るにし活たま育うも「うで性せん。身な経り教に取も能い丨本に、「伸っまた学領度育校す。時に出び、るた、就、を の。るこが適親きに身に教験、育なり」の力ま本に、ばばたす。びで完のに。間子。は、て動ちすて。ると伸時のる任つれな適にる返、を。当つ大がし「学子」は全場は

「実施個のなるのに立つ特別学習指導援学領育校完学子」は全場は

「生活習慣」は、身に付けておきたい力です。

「その通りに身に付けておきたい力です。

「ライフスキルは、

「自己管理、

「自分で起きて、

「光熱費や税金、

「預金の管理をしながら、

「払えない借金を負わない」

「基本的な生活習慣や金銭の自己管理、余暇の使い方・人づきあい」

「日常生活管理能力」

「健康管理能力」

「食事や睡眠などを含めた体調管理を自分でできる力」

「身の回りの世話をしていると思いますが、一人暮らしをした時、自分で気がける必要があります。

「一人で買い物に行く」

「バスに乗って移動する」

「困ったときに助けを求める」

「基本的労働習慣」

「職業適性」

「対人技能」

「感情コントロール・挨拶や謝罪・言葉遣い等」

「基本的生活習慣・金銭管理・余暇活動等」

「食事・栄養・体調・服薬等管理能力」

「学力？」

「職業適性？」

「就労自立支援」

「小学校で就労の話？」

「最後までお付き合いいただければ幸いです。

「世界的なコロナウィルス禍にある現在、日本でも生活様式や働き方などに大きな変化が起こりました。

「総務省統計局が１２月に発表した日本の完全失業率は約２１５万人で、コロナの影響で７か月連続増加しています。

「昨年の同月比で約７０万人増加しており、今後も増え続ける予想です。

「これは、高卒・大卒学生の就職にも影響しており、先の見えない状況が続いています。

「就労自立」とは、字の通り「仕事で収入を得て、自立して生きていく」ことです。

「どのお子さんも最終目標は「就労自立」です。

「それが親としての役割の大きな節目でもあります。

「では、「就労自立」に必要な能力とは何だと思いますか？

「正解であり、不正解でもあります。

「もちろん必要な能力ではありますが、

「これは「就労自立に必要な能力ピラミッド」の頂点にある力に過ぎません。

「底辺にある大切な能力、

「これが身に付いていないと仕事が長続きしなかったり、ミスが続いたりしてしまいます。

「これから「底辺にある能力」に付いてお話します。

「障害者職業センター主任研究員の相澤欽一著「精神障害者雇用支援ハンドブック」の中に、

「障害の有無に関わらず、

「就労に必要な能力について示されています。

「このことについては、長崎県発達障害者支援センター「しおさい」の職員による研修の中でも何度も取り上げられていました。

「相澤氏によると、

「就労に必要な能力は図のようなピラミッドで考えることができます。

「・職業生活自立をする上で大切な能力

「相澤欽一「現場で使える精神障害者雇用支援ハンドブック(2007)より」(金剛出版)

「職業適性

「職務遂行に必要な知識・技能等

「基本的労働習慣

「規則順守・一定時間の仕事に耐える体力と精神力等

「対人技能

「感情コントロール・挨拶や謝罪・言葉遣い等

「日常生活管理

「基本的生活習慣・金銭管理・余暇活動等

「健康管理

「食事・栄養・体調・服薬等管理能力

「最も基礎となる力は「健康管理能力」で、

「これは「食事や睡眠などを含めた体調管理を自分でできる力」になります。

「今は保護者が身の回りの世話をしていると思いますが、

「一人暮らしをした時、

「自分で気がける必要があります。

「それができた上で、

「日常生活管理能力」が必要になります。

「これは「基本的な生活習慣や金銭の自己管理、

「余暇の使い方・人づきあい」

「などになります。

「自分で起きて、

「仕事に遅れないように出勤する」

「光熱費や税金、

「預金の管理をしながら、

「払えない借金を負わない」

「など、

「とても大切な能力になります。

「この二つの能力を「ライフスキル」と言い、

「「就労」だけでなく「生きていく上で必要な基礎的能力」ということになります。

「「一人で買い物に行く」

「「バスに乗って移動する」

「「困ったときに助けを求める」

「など、

「今お子さんにその力があるでしょうか？

「小学校高学年までには身に付けておきたい力です。

「このライフスキルは、

「「大人になって自然と身に付くものではなく、

「就学前の幼児期から子育ての中で意識することで獲得していく」

「ものです。

「「いつかできるようになる」

「でなく、

「「早くから意識しないと十分に育たない、

「身に付かない」

「という意識が大切です。

「これら基礎的な能力の上に、

「「対人技能」

「「基本的労働習慣」

「「職業適性」

「が必要になってきます。

「実際、

「この基本的な力が十分に身に付いていなかったために、

「就職に失敗する例が少なくありませんし、

「本人の能力特性と職業適性が一致しない職業についてしまうと、

「仕事が上手く行かないだけでなく、

「人間関係の悪化などから不安症などの精神疾患を誘発する原因にもなってしまいます。

「学校という場所は、

「小学校～大学まで、

「良くも悪くも「児童・生徒ファースト」です。

「児童生徒のことを第一に考えて、

「周りが動きます。

「しかし、

「社会はそうではありません。

「会社や企業はボランティアで人を雇い、

「賃金を払うことはないので、

「「必要な人材かつ長期的に就労できる」

「ことが雇用の条件となります。

「親がいつまでも子どもの身の回りの世話を焼くわけにはいきません。

「自信をもって１８の春を迎えられるよう、

「歩みを進めていきたいですね。

「次回は「言語・聴覚・視覚障害」についてお話します。

「「みんなちがってみんないい」

「まさに「ラ

「ライフ

「スキル

「キル

「ルは、

「本に、

「当つ大

「切な

「大人

「人に

「なって

「自然

「然と

「と身に

「に付く

「くものではなく、

「ではなく、

「なく、

「就学前の幼児期から子育ての中で意識することで獲得していく」

「ものです。

「「いつかできるようになる」

「でなく、

「「早くから意識しないと十分に育たない、

「身に付かない」

「という意識が大切です。

「これら基礎的な能力の上に、

「「対人技能」

「「基本的労働習慣」

「「職業適性」

「が必要になってきます。

「実際、

「この基本的な力が十分に身に付いていなかったために、

「就職に失敗する例が少なくありませんし、

「本人の能力特性と職業適性が一致しない職業についてしまうと、

「仕事が上手く行かないだけでなく、

「人間関係の悪化などから不安症などの精神疾患を誘発する原因にもなってしまいます。

「学校という場所は、

「小学校～大学まで、

「良くも悪くも「児童・生徒ファースト」です。

「児童生徒のことを第一に考えて、

「周りが動きます。

「しかし、

「社会はそうではありません。

「会社や企業はボランティアで人を雇い、

「賃金を払うことはないので、

「「必要な人材かつ長期的に就労できる」

「ことが雇用の条件となります。

「親がいつまでも子どもの身の回りの世話を焼くわけにはいきません。

「自信をもって１８の春を迎えられるよう、

「歩みを進めていきたいですね。

「次回は「言語・聴覚・視覚障害」についてお話します。